

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。問一から問三までの解答らんは **国語一三** にあります。問四から問十八までの解答らんは **国語一四** にあります。

時おり、下町の鰻屋へ行く。生家のあった地の近くにある店で、鰻のタネがきわめてよい。当然のことながら値段も とはいえない。

先日その店に行ったが、隣の席に来ている家族の男の子に **1** をとめた。小学校三、四年生くらいの少年で、なれた手つきで鰻をつまみ、口に運んでいる。

①不幸な少年だ、と思った。その手つきから察すると、少年は **【A】** 両親に連れられて店に来ているらしい。 **【いつしか】** 高級な鰻の味にもなれ舌が **【コ】** えているのが、無感動な表情からも知れる。

幼い者には、高価で美味なものを食べさせるべきでないというのが、私の持論である。それは私の **【体験にもとづくもの】** で、息子や娘にも自論を押しつけている。

人間が生きてゆく喜びの一つに、美味な食物との出会いがある。それは年齢にしたがって、また社会人としての生活環境の **【カクタイ】** によって見だしてゆくもので、幼く、むろん収入などに無縁の少年が、早くも美味な鰻を食べていることに **【疑問をいだく】**。

親も親である。鰻を食べたければ夫婦で店に入ればいいのであって、子供には年齢相応の安価な食物をあたえておくべきである。子供を金銭感覚の失われた人間にしてしまうおそれも多分にある。少年の鰻をつまむたくみな手つきは、うす気味悪くさえあった。

過去をふりかえってみると、少年時代には、うまいものが限りなくあった。

③その一つに **【食パン】** がある。食パンを対角線に切った、つまり三角形のパンに串をさし、両面に刷毛で黒い蜜をたっぷりぬってある。歯をあてると、パンから蜜がじわつとにじみ出て、蜜のぬられたパンが、パン以外の物であるような気さえた。その他、美味なものはさまざまにあった。水あずき、ソースせんべい、きび団子、どんぶり焼き、 **【きしめん】** などなど。

④ **【田舎】** たったのは、中学校二年生の冬に食べたカレーそばだった。現在のカレー南ばんで、おそらく、そのころに **【シュツゲン】** したのだろう。

先輩の大学生に連れられてそば屋に入り、すすめられて生まれてはじめて食べた。

「うまいだろう？」

先輩の言葉に、私は、ただハイ、ハイと言っただけであった。

このように美味なものが、この世にあったのか、と思った。ライスカレーは好きだったが、⑤ **【カレーとそばがこれほどなじむとは思像もしていなかった】**。その後、私は、そば屋へ行くと必ずカレーそばを食べた。大人にはなんでもないものが、少年の私には、この上ない美味なものに思えたのである。

子供に美味しいものを食べさせ、感激した姿をみたいと思うのは親の情である。が、私は、自分の少年時代の経験から考えて、子供たちを美味な食物を出す店になど絶対に連れて行くことはしなかった。

長男が、大学を卒業し、 **【シユウシヨク】** することになった。なにか祝ってやりたいと思い、妻とともに長男を下町の鰻屋に連れて行った。

⑥ **【今度】** この店にこられるのは何年ぶりか。とちかく当分、こんな鰻は口にできないだろうから、思い切って食べるよ」

私は長男に言った。

長男は、タネの **【ミコト】** と **【ホリツ】** さにおどろき、

「これは、すごいや」

を連発していた。

終戦直後、秋田県の横手市に近い村へ、東京から **【B】** 米の買い出しに行った。小さな **【きき】** 商人宿に泊まったが、そこで出してくれた白米と味噌つけのうまさには恐れられない。米飯が甘く、それが味噌つけの味と調和して **【⑦】** 気の遠くなるようなうまさであった。今、食べればなんとも感しない米飯と味噌つけが美味に思えたのは、粗末な食物を常に口にしていたからである。

食通と言われている人がいる。おいしいものをしばしば食べ、舌が **【コ】** えている人のことを言う。美味なものを口にするためには金銭に **【⑧】** 目をつけず、一人前の料理が数万円といわれる **【きき】**。料亭にも **【2】** を向ける。そうしたことを繰り返しているうちに、人はかれを食通と呼び、自らも食通と思ひこむようになる。

⑨ **【私は、こうした食通の人に敬意をいだくが、その反面不幸な人たちではないかと思つた】**。私たちが少しうまいと感じる食物を、食通の人はきわめてまずい物として再びはしをつけることもしないだろう。私たちが大いにうまいと思うものも、かれらは、まあ、まあだと言いながらさまざま欠点を見いだすにちがいない。

美味な物に多くふれてきた食通の人の舌は、食物に対して敏感で、妥協することをしない。するとい味覚で、味を **【きき】** 峻別する。このような舌を満足させる食物は、むろん少ない。つまり、おいしいと思うことはまれで、それ **【コエ】** に私は不幸な人たちでもあると言つのである。

人間は、年齢をかさねるうちに食物の味に鈍感になる。それは、⑩ **【多かれ少なかれさまざまなおいしいものを口にしているうちに味というものにまひするからだだろう】**。私自身もその例にもれないが、それでも時おりうつとりするほどおいしいと感じる食物に出会う。それは、私が食通と無縁の人間であるからなのである。

食通と言われる人と同席したことがあるが、一つ不快なことがあった。出された料理の味つけについて、その人はあれこれと批判をした。言われてみると、なるほどそうかもしれぬと思つたが、幼いころから、料理についてとちかく口にするのははしたない、と母親にしつけられてきたことが思い起こされた。

母は、食事をする時、作った人への感謝を忘れてはならぬ、と口くせのように言っていた。献立を考え、野菜、魚を買いに行き、味つけをして皿や **【きき】** 小鉢に入れて食卓に出す。その過程を考えれば、思いつきの批判などできぬはずだ、というのだ。まずければたまっている。うまければおいしいと感嘆するのが、料理を作る人への思いやりだ、とも言った。

⑪ **【そうした幼いころに耳にした母の言葉が身にしみついているので、味つけをあれこれに言つた人を、はしたない人だと思つたのである】**。



下町の鮓屋で鮓をつまんでいた⑩少年の顔には、老人に似た表情
があつた。唇根にしわを寄せ、もくもくと鮓を口にはこんでいた。必要は【 C 】ない。美味なものを早くも口にしてしまった子供
は、食物をおいしく感じるこの少なり人間として成長する。
子供は、あくまで子供である。子供らしい食物をあだえてやれば【 D 】不幸なことと言つてきではならぬだろうか。
いいのであって、一人前の大人が口にするようなものを食べさせる
(『美を申すと』吉村昭)

〔注〕

- 注1 支那そば…中華そばのこと
注2 商人宿…仕事や商売などで出張してきた人が宿泊する旅館
注3 料亭…日本料理をたず、高級な料理屋
注4 峻別…少しのあいまいさも残さず区別すること
注5 小鉢…小さな深めの食器

問一 本文中のカタカナは漢字に直し、漢字は読み方を書きなさい。

問二 の中に入れるのにふさわしい言葉をひらがな三文字で答えなさい。

問三 ①・②にあてはまる言葉をそれぞれ次から選び記号で答えなさい。

- ア 手 イ 足 ウ 口 エ 耳 オ 目 カ 鼻

問四 ①不幸な少年だ、と語った とありますが、これは作者のどのような考えから出てきた言葉ですか。その考えにあてはまる箇所を本文中から二十五字以内でぬき出し、解答らんにあてはまるように答えなさい。

問五 【 A 】から【 D 】にあつてもあてはまる言葉をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア ちらちら イ ぱりぱり ウ しはしは エ ゆるゆる オ はなはだ カ はるばる

問六 ③つかぬ は、どこにかかっていると思いますか。あてはまる箇所を記号で答えなさい。

- ③つかぬ ア 高級な B 鮓の C 味に D ひなれ E 舌が F コレで G ひろのが、 H 無感動な I 表情が J あも K 知れる。

問七 ④疑問をひたぐ について、答えなさい。

- 1 どのようなことに対して疑問をひたぐのですか。本文中からぬき出して答えなさい。
2 なぜ疑問をひたぐのですか。自分の言葉で説明しなさい。

問八 ⑤その一つ とありますが、「その」は何のことですか。文中の言葉を使って解答らんに合うような形にして答えなさい。

問九 ⑥田舎 の意味としてあつてもふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

- ア ひびくたむらこ イ たいそうおもしろい
ウ 十分に満足すること エ もっともずばらしいこと

問十 ⑦カレーとそばがこれほどなじりあつては想像もししていなかった とありますが、作者はこの時までにどのように考えていたのでしょうか。あつてもあてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア カレーに合うのはステーキであつて、そばは合わないと思つていた。
イ カレーとそばの組み合わせは不自然だが、味はいいだろうと思つていた。
ウ カレーに合うめん類は、そばではなくてうどんやうどんと思つていた。
エ そばは何にでも合うので、カレーとも合うだろうと思つていた。

問十一 ⑧今頃、この店にいられるのは何年か とありますが、この後どのような言葉が書かれていますか。ききと五字以上十字以内で答えなさい。

問十二 ⑨気の遠くなるような とありますが、この言葉と同様の意味となる別の言い方を自分の言葉で答えなさい。



問十三 ㊦ 糸目をつげず の意味としてあつてもふさわしいものを次から選択記号で答えなさい。

- ア どうなるか結果も考えずに、どんどんおし進めること
- イ 自分の欲望を満たすために、他人をおしのけること
- ウ 目的を達成するために、おしげもなく使うこと
- エ 返せるおてもないのに、きりもなく借りること

問十四 ㊦ 私は、こうした食通の人に敬意をいだくが、その反面不幸な人だとは思ひながら思つ について答えなさい。

- 1 敬重 とありますが、食通の人の、どのようなところに敬意をいだいていると言っているのですか。文中の言葉を基として、解答らんに合うようにわかりやすくまとめなさい。
- 2 不幸な人だか とありますが、どのようなところが不幸であると考えられているのですか。解答らんに合うように自分の言葉でまとめなさい。

問十五 ㊦ 多かれ少なかれ とありますが、使い方がまちがっているものを次から一つ選択記号で答えなさい。

- ア 人はたれでも、多かれ少なかれ心配事があるものだ。
- イ 六十歳を過ぎれば、多かれ少なかれ体になたがくるものだ。
- ウ 若い二人には、「多かれ少なかれがんばれ」といつも言っている。
- エ 誕生日といふものは、多かれ少なかれたれにとつともつれしいものだ。

問十六 ㊦ こうしためいじろに耳にした母の言葉が身にしみてくるのだ、味づかぬおれおれに言つた人ぞ、はしたなひ人だと思つたのである について答えなさい。

- 1 母の言葉が身にしみてくる とは、どのようなことですか。あつてもふさわしいものを次から選択記号で答えなさい。
 - ア 母の言葉にいられて、自分の思ひ通りに行動できない。
 - イ 母の言葉が自分の考えになり、ものごとを判断する上での目安になっている。
 - ウ 母の言葉の印象が強いために、何かについても母に思慕されているものに感じる。
 - エ 母の言葉がいつのまにか自分の考えと入れかわり、母の言葉通りに行動してしまっている。

2 はしたなひ人 とはこのよつな人ですが、あつてもふさわしいものを選択記号で答えなさい。

- ア はずかしい人 イ やせしくない人 ウ 考えが浅い人 エ 品がない人

3 味づかぬおれおれに言つた人ぞ、はしたなひ人だと思つた とありますが、なぜ「味づかぬおれおれに言つた」として「はしたなひ」と感じたのですか。文中の言葉を使って解答らんに合うように答えなさい。

問十七 ㊦ 少年の隣には、老人に似た表情があつた とありますが、このよつな少年に対する作者の印象をあらわしている語句を、これより前の本文中から十字以上十五字以内で抜き出さなさい。

問十八 私の体験にもつてくもの とありますが、私の体験とはどのようなものですか。本文中にあるおまじひまな例をふまえて、あつてもふさわしい例を一つ挙げ、その意味内容を基として、解答らんに合うように自分の言葉で二十字以上三十字以内で答えなさい。

二〇〇八年度東洋英和女学院中学部入学検査解答用紙 A 問一から問三は1の解答らんに記入しなさい。

問一	生家	コ えて	カクタイ	シコツザン	シコウシヨウ	ミコト
	ホウツ	それ	コエ	に		
			問二		問三	1
					2	

問四から問十八は、この解答さんに記入しなさい。

[illegible]

2310 新次

[A]

【C】

【D】

問六

1

2

問八

617

問九

問十

問十

問十一

問十一 三

問十四

1

۱۱۱۱

2

۱۱۱۱

問十五

問十六

1

2

3

から

圖十七

問十八

體驗